

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

鳥羽市

平成 30 年 9 月

本年 4 月に小学校第 6 学年及び中学校第 3 学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、7 月 31 日に文部科学省から公表されました。

調査結果や本市（町）における児童生徒の学力の定着状況、生活習慣、学習状況等の分析結果、今後の取組を以下のとおりまとめました。

なお、調査結果の取扱いについては、文部科学省が示す実施要領における下記の「5. 調査結果の取扱い」の「（5）調査結果の取扱いに関する配慮事項」をご覧ください。

5. 調査結果の取扱い

文部科学省は、以下のとおり、調査結果を示し、公表するとともに、各教育委員会、学校に対して、調査結果等を提供する。

また、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 21 条第 17 号の規定により、調査の実施、調査結果の活用及び公表等を含め、調査は教育委員会の職務権限である。そのため、教育委員会は、調査結果の活用及び公表等の取扱いについて、主体性と責任を持って当てることとする。

調査の概要

・調査の目的

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全市的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらにそのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する目的で実施されています。

・調査の対象および実施した公立学校数・児童生徒数

区分	小学校第 6 学年	中学校第 3 学年
学校数	8 校	5 校
児童生徒数	1 4 2 名	1 3 4 名

1 教科に関する調査の結果・分析

(1) 鳥羽市における特徴的な傾向

＜小学校国語Ａ＞

○強み

- ・問題８才：正答率 61.3％（三重県 51.6％，全国 51.4％）

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができます。

○弱み

- ・問題５：正答率 24.6％（三重県 33.5％，全国 35.5％）

主語と述語との適切な係り受けの関係が捉えにくかったようです。主語と述語を適切に照応させることができていないと考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 主語に対して適切な述語を使用することに課題が見られます。主語と述語が適切な係り受けの関係となっていることが、伝えたいことを相手に正確に伝える上で重要であることに気付くようにすることが大切です。日常から、書いて表現するときだけでなく、文章を読んだり話したりするときにも意識できるように指導することが大切です。

＜小学校国語Ｂ＞

○強み

- ・問題３二：正答率 52.8％（三重県 50.8％，全国 52.3％）
無回答率 6.3％（三重県 13.5％，全国 11.9％）

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読み、書かれている言葉や文を中心に取上げて書くことができました。また、60 字以上 100 字以内で書くといった問題に対して、無回答ではなく粘り強く書こうとする姿があったと思われます。

○弱み

- ・問題１二：正答率 71.1％（三重県 76.2％，全国 77.5％）
問題文の中にある、司会の発言に着目することができなかったと考えられます。問題文の一部分のみを捉えて回答してしまったと思われます。

■全体の傾向から見られる課題

- 問題１二の、話し合いの中での司会の役割を選択する問題において、「立場を明確にして話し合うために、最もよい考えを選び出そうとしている」を選択した児童が多く見られました。「三人の意見について、みなさんはどう考えますか」という司会の発言に着目できず、田中さん、北川さん、小池さんのそれぞれの考えを整理することで「最もよい考えを選び出そうとしている」を選んだ児童もいると思われます。文章全体を読んだ上で回答せず、一部のみの読み取りから判断して選んでしまっている、という課題がみられました。まとまった文章を読み取るときに、全体の内容から話し手（書き手）の意図を捉える指導を行うことが必要です。

＜小学校算数A＞

○強み

- ・問題5 (2) : 正答率 65.5% (三重県 58.5%, 全国 58.5%)
180° や 360° を基に分度器を用いて、180° よりも大きい角の大きさを求めることができます。
- ・問題8 : 正答率 58.5% (三重県 50.2%, 全国 52.9%)
百分率を求めることができます。

○弱み

- ・問題2 : 正答率 31.0% (三重県 36.9%, 全国 39.9%)
小数の除法の意味についての理解度が低いです。

答えが $12 \div 0.8$ の式で求められる問題を、下の 1 から 4 までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。

1 1 m の重さが 12 kg の鉄の棒^(はり)があります。
この鉄の棒 0.8 m の重さは何 kg ですか。

3 赤いテープの長さは 12 cm です。
白いテープの長さは、赤いテープの長さの 0.8 倍です。
白いテープの長さは何 cm ですか。

2 0.8 L で板を 12 m² ぬることができるペンキがあります。
このペンキ 1 L では、板を何 m² ぬることができますか。

4 長さが 12 m のリボンを 0.8 m ずつ切っていきます。
0.8 m のリボンは何本できますか。

正答は「2, 4」です。

「1, 4」の反応率が 26.1%です。被除数が除数の幾つ分かを求める問題場面では、除数が 1 より小さい小数である場合でも除法を用いることを理解し、4 を選択することはできていますが、比較量を求めるときは、乗法ではなく除法を用いると捉え、1 も選択していると考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 「小数の乗法の意味について理解し、問題の場面から式を考えること」に課題がみられます。

低学年から、図や数直線などを用いて、数量の関係を的確に捉え、立式することができるようになることが大切と考えます。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、問題場面を図や数直線などに表し、数量の関係を的確に捉え、立式する活動が考えられます。その際、乗法の問題場面と除法の問題場面をそれぞれ表した、テープの図と数直線を合わせた図を比較することができるようになることが大切と考えます。

＜小学校算数B＞

○強み

- ・今年度については特にありません。

○弱み

- ・問題1（2）：正答率 43.0%（三重県 48.5%，全国 48.2%）

図形の構成要素や性質を基に，集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述することに課題がみられます。

着目した図形の名称は答えられていますが、着目した図形の角の大きさを誤って書いています。

- ・問題4（1）：正答率 54.2%（三重県 61.1%，全国 62.7%）

示された考えを解釈し，条件を変更して数量の関係を考察し，分配法則の式に表現することに課題がみられます。

- ・問題5（1）：正答率 37.3%（三重県 42.3%，全国 43.2%）

折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を，示された数量を関連付け根拠を明確にして記述することに課題がみられます。

○無回答率

- ・問題1（2）：9.2%（三重県 15.1%，全国 14.4%）

- ・問題5（1）：9.9%（三重県 17.4%，全国 16.6%）

両設問とも正答率が低く弱みである部分ですが、最後まであきらめず色々な方法を考えて試行錯誤した児童が多くいたと考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 問題文の文章量が多く，必要な情報や数量を選びとることに慣れていない児童には捉えにくく，正答率の落ち込みが見られたと考えられます。ある事柄に関して、論理的、発展的に考察し数学的に表現することに課題がみられます。

基礎と応用を分断するのではなく、場面が示す文脈の中で、知識を活用していくといった指導方法が大切だと考えます。また、日常生活の事象に関する問題を多く取り入れことも大切だと考えます。

＜小学校理科＞

○強み

- ・問題 1 (1) : 正答率 86.6% (三重県 80.4%, 全国 82.1%)

安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想する力はかなりの児童ができています。

○弱み

- ・問題 1 (2) : 正答率 70.4% (三重県 74.4%, 全国 76.2%)

調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析することに課題がみられます。

翼や腕の曲がる方向に関する記述がないにもかかわらず、翼や腕の曲がる方向を示す選択肢を選んでいく児童が多くいました。

- ・問題 2 (4) : 正答率 54.2% (三重県 58.5%, 全国 59.8%)

より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察することに課題がみられます。

解答類型 2, 4, 6 の反応率の合計が 37.7% と高く、これは、上流で雨が降り始めると同時に、水位は高くなるという選択肢を選んでいきます。このように解答した児童は、上流の降雨と下流の水位の関係について、調べた結果から分析して考察することができていないと考えられます。

- ・問題 4 (3) : 正答率 35.9% (三重県 38.4%, 全国 42.7%)

物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用することに課題がみられます。

解答類型 1 の反応率は 23.2% と高く、これは、食塩を溶かす前の水の重さである 400 g を示す選択肢を選んでいく。このように解答した児童は、食塩が水に溶けると食塩の重さがなくなると捉えており、物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことへの理解が十分でないことが考えられる。

- ・問題 4 (4) : 正答率 28.9% (三重県 32.9%, 全国 35.9%)

無回答率 4.9% (三重県 10.1%, 全国 8.9%)

実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述することに課題がみられます。

しかし、無回答率は低く、最後まであきらめず色々な方法を考え試行錯誤した児童が多くいたと考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 知識を問う三問の正答率は 75.4% だったものの、活用に関する十三問は 53.0% にとどまりました。

物を水に溶かしても全体の重さは変わらないといった、基礎的ではあるが従来児童が苦手な内容を扱った問題の正答率は低めでした。基礎が定着していないままでは科学的思考を育むのは難しく、苦手に焦点を合わせた指導が大切だと考えます。

＜中学校国語Ａ＞

○強み

- ・問題８－１：正答率 85.1％（三重県 78.8％，全国 79.0％）
無回答率 6.7％（三重県 12.4％，全国 13.2％）
文脈に即して正しく漢字が書けています。
- ・問題８三３カ：正答率 70.1％（三重県 64.0％，全国 65.4％）
文脈に即して適切な語句を選択することができています。
- ・問題８五：正答率 61.2％（三重県 53.8％，全国 54.4％）
行書の基礎的な書き方を理解しています。行書の書き方でどのようにすべきかを友達に助言することができるようです。
- ・問題８六２：正答率 67.9％（三重県 61.9％，全国 63.0％）
歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができています。

○弱み

- ・問題２二：正答率 56.0％（三重県 61.9％，全国 64.0％）
「図書だより」を書く際に、伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書くことができませんでした。

■全体の傾向から見られる課題

- 問題２二では、伝えたい事柄２つのうち両方を取り入れて書けなかった生徒が多く見られました。３０字以内という限られた字数の中に、伝えたい事柄をまとめて書くことが難しかったと思われます。普段から、伝えたい内容を限られた時間・字数でまとめて書く指導が必要です。

＜中学校国語Ｂ＞

○強み

- ・問題３一：正答率 84.3%（三重県 78.8%，全国 80.2%）
物語文の場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することができています。
- ・問題３二：正答率 72.4%（三重県 66.1%，全国 68.2%）
物語文の登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることができています。
習慣的な読書活動の成果であると考えられます。

○弱み

- ・問題１一：正答率 37.3%（三重県 44.8%，全国 45.9%）
グラフからわかることについて、２種類のグラフ《全体》と《年代別》をそれぞれ結び付けながら読み、内容を正しく捉えることができていない生徒が多くいました。《年代別》のグラフについて問われているのに対し、《全体》について記述されている内容で回答してしまったようです。
- ・問題１三：正答率 6.0%（三重県 12.0%，全国 13.3%）
「天地無用」を誤った意味で受け取る人が多い理由について書かれた文章の構成や展開に着目しながら、目的に応じて文章を読み、内容を的確に捉えてまとめて書くことができませんでした。
- ・問題２三：正答率 41.0%（三重県 51.2%，全国 54.6%）
ロボットについての発表のために作成した「資料」や「発表・質問の場面の一部」を読み、発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選ばませんでした。「資料」と「発表」を関連付けて考えることができなかったと思われる。
- ・問題３三：無回答率 17.9%（三重県 12.6%，全国 12.4%）
話のあらすじを相手に的確に伝わるように、自分の言葉でまとめて書くことができませんでした。限られた時間内に 70 字以上 120 字以内の字数でまとめて書くことに対してあきらめてしまう生徒が多かったと考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 生徒が「目的に応じて」文章の内容を的確に読み取るために、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、文章の構成や展開を捉えて内容を理解するように指導することが大切です。さまざまなジャンルの文章や文章以外にも図表などが使われているものなどに慣れ親しみ、内容を的確に読み取る力をつけていくことが大切です。また、自分の言葉でまとめて書くことに課題があるので、普段から自分の言葉を使って、限られた時間・字数でまとめた文章を書く指導が必要です。

＜中学校数学A＞

○強み

- ・問題 1 (2) : 平均正答率 85.0% (三重県 76.7%, 全国 69.0%)
絶対値の意味を理解している生徒はかなりいます。しっかり定着しています。
- ・問題 1 (3) : 平均正答率 78.9% (三重県 70.6%, 全国 68.9%)
指数を含む正の数と負の数の計算はかなりの生徒ができています。
- ・問題 2 (1) : 平均正答率 55.6% (三重県 44.9%, 全国 41.5%)
数量の大小関係を不等式に表すことはできています。
- ・問題 5 (2) : 平均正答率 91.7% (三重県 82.8%, 全国 82.4%)
半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している生徒はかなりいます。しっかり定着しています。
- ・問題 6 (2) : 平均正答率 82.0% (三重県 74.7%, 全国 75.7%)
多角形の内角の和の性質を理解している生徒はかなりいます。
- ・問題 14 (1) : 平均正答率 80.5% (三重県 68.8%, 全国 68.4%)
最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している生徒はかなりいます。しっかり定着しています。

○弱み

- ・問題 7 (2) : 平均正答率 71.4% (三重県 76.7%, 全国 78.2%)
長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解していない生徒がいると考えられます。
長方形の定義である「4つの角がすべて等しい」ことが、ひし形でも成り立つと捉えた生徒がいると考えられます。
- ・問題 9 (2) : 平均正答率 45.1% (三重県 56.1%, 全国 55.0%)
与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることに課題があります。
グラフから変域を読み取れていない生徒や変域の意味を理解できていない生徒がいると考えられます。
- ・問題 9 (3) : 平均正答率 47.4% (三重県 55.1%, 全国 52.8%)
反比例について、グラフと表を関連付けて理解することに課題がみられる生徒がかなりいると考えられます。
与えられたグラフと表の対応する x と y の値の組を関連付けることができていない生徒や反比例を、 x の値が1ずつ増加すると y の値は一定の割合で増加する関係と捉えた生徒がいると考えられます。
- ・問題 11 (2) : 平均正答率 51.1% (三重県 56.8%, 全国 56.3%)
一次関数 $y=ax+b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解することに課題がみられる生徒がかなりいると考えられます。

一次関数 $y = -2x + 6$ のグラフについて、 y 軸との交点の y 座標（切片）は正しく捉えているが、 x の係数（傾き）が負の数の場合は右上がりの直線になると捉えた生徒がいると考えられる。

■全体の傾向から見られる課題

- 数と式、図形の領域の「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の観点において基本的な力は付いています。

しかし、関数の領域の「数学的な技能」等の観点に課題がみられます。これは経年的な課題でもあります。比例、反比例、一次関数の特徴を、表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるように指導することが大切であると考えます。また、グラフを書いたり、グラフを用いて視覚的に捉えたりする活動を多く取り入れた指導をすることも大切であると考えます。

＜中学校数学B＞

○強み

- ・問題1（1）：平均正答率 60.9%（三重県 54.9%，全国 55.7%）
与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することはできています。
- ・問題1（2）：平均正答率 47.4%（三重県 40.6%，全国 43.9%）
与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることはできています。

○弱み

- ・問題2（2）：平均正答率 25.6%（三重県 37.9%，全国 37.5%）
事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することに課題がみられます。
事柄が一般的に成り立つ理由を説明するために、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが必要であると考えます。
- ・問題4（1）：平均正答率 45.1%（三重県 53.9%，全国 55.4%）
証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たな性質を見いだすことに課題がみられます。
四角形E B F Dが平行四辺形であることから新たにわかることを、平行四辺形の性質と関連付けることはできていますが、O EとO Fの長さが等しいことが四角形E B F Dが平行四辺形であることを証明するために用いられた根拠であることを捉えることができなかった生徒がいると考えられます。
証明を書くこととともに、証明を読む場面を設定し、証明の結果や過程を振り返り、新たな性質を見いだすことができるように指導することが大切であると考えます。

○無回答率

- ・問題2（2）：33.1%（三重県 22.7%，全国 25.0%）
- ・問題4（3）：27.8%（三重県 22.7%，全国 24.6%）
正答率も低く、問題の解き方が分からなかったため諦めた生徒が多くいたと考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 記述式の問題への取組に課題がみられます。4領域中3領域（数と式、図形、関数）の記述式問題で、三重県、全国の正答率を下回りました。また、無回答率も非常に高い数値となっています。
普段の授業から、最後まであきらめず色々な方法を考え試行錯誤する活動を取り入れる必要があると考えます。

＜中学校理科＞

○強み

- ・問題 3 (3) : 平均正答率 59.4% (三重県 52.9%, 全国 52.3%)
シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘することはできています。
- ・問題 7 (2) : 平均正答率 85.0% (三重県 78.7%, 全国 78.5%)
緊急地震速報を受け取ってから S 波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘することはできています。

○弱み

- ・問題 2 (2) 3.0%の濃度 : 平均正答率 43.6% (三重県 51.1%, 全国 46.9%)
濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘することができていません。溶液（食塩水）の質量に対する溶質（食塩）の質量の割合（質量パーセント濃度）を表す技能に課題がみられます。これは、経年的課題でもあります。
水溶液の濃度を量的に扱うことは、水溶液における粒子の基本的な見方や概念を形成する上で大切であると考えます。
- ・問題 4 (3) : 平均正答率 42.9% (三重県 49.2%, 全国 49.4%)
化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明することができていません。化学変化の前後で原子の種類や数は変化しないという知識を活用して、化学変化を表した原子や分子のモデルを検討して改善することに課題がみられます。
自然の事物・現象を科学的に探究する上で、物質や化学変化を原子や分子のモデルで表し、化学変化に関する知識・技能を活用して、検討して改善することは大切であると考えます。
- ・問題 5 (2) : 平均正答率 55.6% (三重県 61.2%, 全国 62.8%)
「運転士が信号を見てブレーキを踏む」ことを、「LEDの点灯を見たらスイッチBを押す」操作に対応させて関連付けることができていません。また、「運転中の運転士」を「LEDの点灯を見たらスイッチBを押す女子生徒」に対応させて関連付けることもできていません。
自然の事物・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験を計画することに課題がみられます。

○無回答率

- ・問題 4 (3) : 21.1% (三重県 15.7%, 全国 16.2%)
正答率も低く、問題の解き方が分からなかったため諦めた生徒が多くいたと考えられます。

■全体の傾向から見られる課題

- 知識に関する十一問の正答率は 69.0%、活用力を問う十六問は 65.4%で大差はありませんでした。

水溶液の濃度の理解が進んでおらず、記述式の問題への取組にも課題がみられます。小学校同様、基礎的ではあるが従来生徒が苦手な内容を扱った問題の正答率は低めでした。基礎が定着していないままでは科学的思考を育むのは難しく、苦手に焦点を合わせた指導が大切だと考えます。

溶質と溶媒の割合の関係を視覚的に捉えることができるようにするために、小学校の算数科の学習で使われている線分図（テープ図）の利用等、工夫した指導をすることが大切だと考えます。また、しょうゆや即席みそ汁などの食品を取り上げ、実際にそれに含まれる食塩の質量パーセント濃度を求めるなど、身近なものとして学習場面を設定することも大切だと考えます。

（２）無解答率の状況

問題に対して無回答が多いほど、無回答率は高くなります。

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
鳥羽市	1.6	1.6	0.6	5.6	0.4
三重県	3.0	3.9	2.0	8.3	1.2
全 国	3.5	3.8	2.5	7.9	1.2

中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
鳥羽市	2.4	4.5	2.9	13.1	5.3
三重県	2.9	3.0	2.8	11.6	5.0
全 国	3.1	3.0	3.3	12.6	5.0

小学校のすべての教科において無回答率が低かったです。普段からあきらめずに取り組む指導の成果であると考えられます。

中学校の B 問題における無回答率はいずれも全国の数値よりも高かったため、授業中から問題に積極的に取り組む姿勢を育てていくことが必要であると考えます。

(3) 各教科の平均正答率

(単年) 三重県の正答率は小数点以下を四捨五入したもの

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
鳥羽市	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて やや低い	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて やや低い	全国と比べて やや低い
三重県	70	54	63	50	59
全 国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
鳥羽市	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて やや低い	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ	全国と比べて ほぼ同じ
三重県	75	60	67	46	66
全 国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

平均正答率については、全国、三重県、鳥羽市いずれも公立校のみの結果を集計した値です。概要については、全国と鳥羽市の差異が±3.0ポイント以内を「ほぼ同じ」、±3.0～6.0を「やや高い・低い」と表しています。

(経年) 小学校第6学年時(H27)と中学校第3学年時(H30)の平均正答率の変化について

中学校3年生において、小学校6年生時との平均正答率を比較した結果、「主に知識」を問うA問題に関しては、改善が見られますが、「主に活用」の力を問うB問題に関しては、まだまだ多くの課題がみられます。

多様な問題に積極的に取り組み、「考える力」と「活用力」を育成する必要があると考えられます。

2 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

（１）児童生徒質問紙調査に関する結果から特に大切にしたいもの

①家庭学習への取組（肯定的な回答）

計画的に学習をしている児童・生徒については、小学校は年々改善が見られ全国を大きく上回っています。しかし、中学校は昨年度よりかなり減少し全国を下回っています。

宿題をしている児童・生徒は、小中学校ともに全国を上回っています。

（質問：小・中１０）家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

小学校	H28	H29	H30
鳥羽市	60.5	66.7	76.8
三重県	61.7	62.8	67.6
全 国	62.2	64.5	67.6

中学校	H28	H29	H30
鳥羽市	44.3	65.2	51.8
三重県	50.3	54.3	54.8
全 国	48.4	51.5	52.1

（質問：小・中１１）家で、学校の宿題をしていますか。

小学校	H28	H29	H30
鳥羽市	96.3	98.6	97.8
三重県	97.7	97.0	97.8
全 国	97.0	96.9	97.1

中学校	H28	H29	H30
鳥羽市	93.7	91.9	98.5
三重県	91.8	91.7	93.5
全 国	90.1	89.5	91.6

（質問：小・中１２）家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。

小学校	H30
鳥羽市	71.8
三重県	61.1
全 国	62.6

中学校	H30
鳥羽市	51.8
三重県	55.7
全 国	55.2

②基本的生活習慣（肯定的な回答）

各家庭でルール作りについて話をすることが大切と考えます。

（質問：小・中 7， 8， 9）

基本的な生活習慣を身につけた子どもたちの割合

（朝食・起床就寝を「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の平均値【小数点以下を四捨五入】）

小学校	H28	H29	H30
鳥羽市	87. 8	87. 1	85. 4
三重県	89. 1	88. 6	86. 0
全 国	89. 1	88. 8	86. 8

中学校	H28	H29	H30
鳥羽市	88. 3	86. 9	87. 0
三重県	87. 4	87. 1	85. 2
全 国	86. 9	88. 6	85. 5

③自尊感情（肯定的な回答）

小学校では、すべての項目において全国を下回っています。中学校では、すべての項目において全国を上回っています。学校生活の中で子どもたち一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、評価する取組が必要と考えます。

（質問：小・中 1）自分にはよいところがあると思う。

小学校	H28	H29	H30
鳥羽市	78. 4	85. 0	78. 2
三重県	75. 5	77. 4	83. 4
全 国	76. 3	77. 9	84. 0

中学校	H28	H29	H30
鳥羽市	71. 6	80. 2	82. 0
三重県	71. 3	73. 2	79. 9
全 国	69. 3	70. 7	78. 8

（質問：小・中 2）先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。

小学校	H28	H29	H30
鳥羽市	78. 4	85. 7	85. 2
三重県	83. 8	87. 2	86. 4
全 国	82. 6	86. 0	85. 3

中学校	H28	H29	H30
鳥羽市	78. 4	85. 5	82. 7
三重県	79. 6	82. 2	84. 2
全 国	78. 0	80. 4	82. 2

(質問：小・中３) 将来の夢や目標を持っていますか。

小学校	H28	H29	H30
鳥羽市	83.6	80.9	74.6
三重県	83.7	84.4	83.7
全 国	85.3	85.9	85.1

中学校	H28	H29	H30
鳥羽市	71	78.5	74.4
三重県	71	71.2	72.5
全 国	71.1	70.5	72.4

(2) 鳥羽市として大切にしたい10個の項目の経年変化
(経年変化) 小学校

	質問項目		H28	H28→ H29	H29	H29→ H30	H30	H28→H30
①, ②, ③については、低い方が改善しているものとします。								
①	平日のテレビ等の視聴 (3時間以上)	本市	43.2	↗	41.5		35.5	
		全国	32.8		32.7		-	
		全国との差	10.4	↘	8.8		-	
②	平日のテレビゲーム等使用時間 (スマホのゲームを含む)(3時間以上)	本市	20.9	↗	19.8		26.2	
		全国	16.0		17.6		-	
		全国との差	4.9	↘	2.2		-	
③	平日のスマホの通話やメール、インターネットの使用(3時間以上)	本市	5.2	↘	8.2		9.7	
		全国	5.8		7		-	
		全国との差	-0.6	↘	1.2		-	
④	平日の学習時間 (1時間以上)	本市	61.2	↗	73.4	↘	66.9	+ A
		全国	62.5		64.4		66.2	
		全国との差	-1.3	↗	9	↘	0.7	
⑤	休みの日の学習時間 (1時間以上)	本市	46.2	↗	59.8		68.3	
		全国	57		57.3		-	
		全国との差	-10.8	↗	2.5		-	
⑥	平日の読書時間(30分以上)	本市	37.3	↘	32.7	↗	45.1	+ A
		全国	36.5		36.5		41.1	
		全国との差	0.8	↘	-3.8	↗	4.0	
⑦	いじめはどんな理由があってもいけないと思う	本市	97	↗	97.2	↗	97.9	+ A
		全国	96.6		96.1		96.8	
		全国との差	0.4	↗	1.1	→	1.1	
⑧	5年生までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。	本市	76.2	↗	80.9		84.8	
		全国	77.8		77.9		-	
		全国との差	-1.6	↗	1		-	
⑨	授業では学級の友だちとの間で話し合う活動をよく行っている。	本市	86.6	↘	86.4		91.0	
		全国	83.4		84.5		-	
		全国との差	3.2	↘	1.9		-	
⑩	5年生までに受けた授業では、学級やグループの中において自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。	本市	75.4	↗	81		77.2	
		全国	75.7		75.1		-	
		全国との差	-0.3	↗	5.9		-	

矢印は、「本市の割合」及び「全国との差」の変位を表し、↗は「改善・上昇」、→は「変動なし」、↘は「下降」を表す。

A・B・Cは、「全国との差」の変位を表し、Aは「改善・上昇」、Bは「変動なし」、Cは「下降」を示す。

表中の+・-は、「本市の割合」の変位を表し、+は「改善・上昇」、-は「下降」を表す。

(経年変化) 中学校

	質問項目		H28	H28→ H29	H29	H29→ H30	H30	H28→H30
①, ②, ③については, 低い方が改善しているものとします。								
①	平日のテレビ等の視聴 (3時間以上)	本市	28.4	↗	23.8		23.9	
		全国	24.1		25.3			
		全国との差	4.3	↗	-1.5			
②	平日のテレビゲーム等使用時間 (スマホのゲームを含む)(3時間以上)	本市	22.7	↗	21.5		21.6	
		全国	18.9		21.4			
		全国との差	3.8	↗	0.1			
③	平日のスマホの通話やメール, インターネットの使用(3時間以上)	本市	22.8	↗	19.8		14.2	
		全国	16.6		18.1			
		全国との差	6.2	↗	1.7			
④	平日の学習時間 (2時間以上)	本市	26.7	↗	39.5	↘	27.9	+
		全国	34.2		35.4		36.4	C
		全国との差	-7.5	↗	4.1	↘	-8.5	
⑤	休みの日の学習時間 (2時間以上)	本市	38.1	↗	48.3		52.2	
		全国	40.1		41.8			
		全国との差	-2.0	↗	6.5			
⑥	平日の読書時間(30分以上)	本市	27.3	↘	25.6	↗	36.2	+
		全国	28.2		29.2		30.9	A
		全国との差	-0.9	↘	-3.6	↗	5.3	
⑦	いじめはどんな理由があってもいけないと思う	本市	95.4	→	95.4	↗	97.0	+
		全国	93.6		92.8		95.5	C
		全国との差	1.8	↗	2.6	↘	1.5	
⑧	1・2年生の時に受けた授業では, 先生から示される課題や, 学級やグループの中で, 自分たちで立てた課題に対して, 自ら考え, 自分から取り組んでいたと思いますか。	本市	78.4	↗	85.5		82.1	
		全国	73.8		74.9			
		全国との差	4.6	↗	10.6			
⑨	授業では生徒の間で話し合う活動をよく行っている。	本市	84	↗	87.8		90.3	
		全国	77.8		81.8			
		全国との差	6.2	↘	6			
⑩	1・2年生の時に受けた授業では, 学級やグループの中で自分たちで課題を立てて, その解決に向けて情報を集め, 話し合いながら整理して, 発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。	本市	73.9	↗	78.1		77.6	
		全国	69.3		65.7			
		全国との差	4.6	↗	12.4			

矢印は, 「本市の割合」及び「全国との差」の変位を表し, ↗は「改善・上昇」, →は「変動なし」, ↘は「下降」を表す。

A・B・Cは, 「全国との差」の変位を表し, Aは「改善・上昇」, Bは「変動なし」, Cは「下降」を示す。

表中の+・-は, 「本市の割合」の変位を表し, +は「改善・上昇」, -は「下降」を表す。

3 鳥羽市教育委員会による学校支援とその成果等の状況

- 各校における公開授業、事後検討会の場の充実をめざすことで、指導者の授業力向上に取り組んできました。検討会の場における指導助言では、市内外の先進的な実践例や学校全体での学力向上への取組事例を紹介することで、各校における実践の深まりを図ってきました。例えば、小学校国語科における単元を見通した言語活動への取組事例の広がりがあります。指導者が、指導事項を明確に持つことで、その単元でつけるべき力をこれまで以上にはっきりと意識された授業が多く見られました。
- 学力向上委員会において、三重県教育委員会が作成した「学V i v aセット」「ワークシート」の活用を進め、「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チェック」等の過去問題への取組も推進してきました。また、「めあてと振り返り」の確実な実施も図ってきました。積極的に意欲的に取り組んだ子どもたちが「書く」問題において最後まであきらめずに取り組むことができたという結果が出ています。各校における日々の児童生徒との積み上げが身を結んでいるとともに、多様な問題に積極的に取り組み、多くの問題を経験していたことも大きな力の一つであったと考えています。

4 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

- 鳥羽市全体で共有し、今後とも重点として行っていくことを以下のようにします。
 - ・学校全体で子どもたちの課題を共有し、同じ方向性を持って授業改善に取り組めます。(詳しくは下記)
 - ・子どもたちが学んだことを十分に発揮できるようにワークシートの活用等、多様な問題への取組を進めます。(詳しくは下記)
 - ・各校において、学校長が普段の授業の様子を見て回り、子どもの様子や教員の指導について気が付いたことを助言していきます。
 - ・「めあてと振り返り」が授業で確実に位置づけられています。特に振り返りについて、子どもたちが学習を深め、意欲的に次の学習につなげられるように質の向上を目指します。
- 『「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、特定の指導方法のことでも、学校教育における教員の意図性を否定することでもない。教員が教えることにしっかり関わり、子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていくことである。』と中央教育審議会の答申にあります。

鳥羽市においても、これまでに大切にされてきた子どもが自ら考え、仲間と共に学び、課題を解決していく学習を推進していくことが深い学びにつながっているものと考えます。教員は授業を進めていく上で、「全国学力・学習状況調査」「みえスタディ・チェック」を検証ツールととらえ、年間2回の大きなPDCAサイクルを確立し、客観的な視点から子どもたちの課題を抽出し授業改善していくことで、学習効果を高めることができます。また、目の前の子どもが「何に困り、何をわかりたいのか」を知り、授業計画→授業実践→授業反省→授業改善という日々のPDCAサイクルを確立していくことも必要と考えています。

- 自分たちで課題に取り組み、一人一人がよく考え、「できるとすごくうれしい。」と話すようになった子どもの変容を目の当たりにし、喜びを実感する教員の姿があります。この姿は学校全体で「学ぶ喜び」「わかる楽しさ」を実感させるため、授業改善の取組を繰り返したからこそ見られたものだと考えます。今後も各校において、学校長を中心に学校全体で同じ方向性を持った組織的・継続的な授業実践を推進していきます。

また、三重県教育員会作成の「ワークシート」「学-viva セット」等を、子どもたちにとっては力試しの場として、教員にとっては多様な問題に対する解答から現状把握を行うツールとして、一層の活用の推進を図ります。

- 地域の実態に合わせ、時には地域の力を借りて、子どもたちが学びを発信していく場を設定することが必要と考えています。自分の力で発信していくことは、日々の学びを様々な面から引き出すことにつながります。必要な情報を選択し、相手を意識して表現する能力を育てていくことは、子どもたちが生きていく社会に欠かせない能力です。

例えば、菅島小学校、神島小学校では「島っ子ガイド」でたくさんの島の名物から、ガイドする相手への意識を持って必要なものを選び取り紹介しています。また、培った経験が普段の生活や授業の中にも表れるという双方向の効果が出ています。

このように、子どもたちが普段の学習で培った力を実感する場を、各校や地域の実態に合わせて設定していくことが必要であると考えています。

- 学習指導の改善・充実、学力向上を図るためには、校内や校区内、鳥羽市全体でお互いの授業や研修会等を見合いながら、教師一人一人が力を付けていくことが効果的であると考えています。今年度より作成した「研修内容等一覧表」の積極的な有効活用を推進していきます。このことが、校内研修の活性化及び若手教員（非常勤講師を含む）の人材育成等にも繋がると考えます。

- 全体を通じて、以下の点を押さえた指導の充実を今後も図っていきます。

- ・ 児童生徒が資料を使って発表できる指導
- ・ 発展的な学習【国語科、算数・数学科】
- ・ 目的や相手に応じて話したり、聞いたりする授業【国語科】
- ・ 実生活における事象との関連を図った授業【算数・数学科】
- ・ 地域の人材を外部講師として招く授業
- ・ 自分で調べたこと、考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導
- ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
- ・ 他の考え方を受け入れ、判断する力を養う指導

（間違いに対して、「相手の考え方を受け止め、何を加えれば「正答」になり得るか考えさせる。」

市内各校においてこれらを児童生徒の状況に応じて選択し、組織的・継続的な取組を推進していきます。